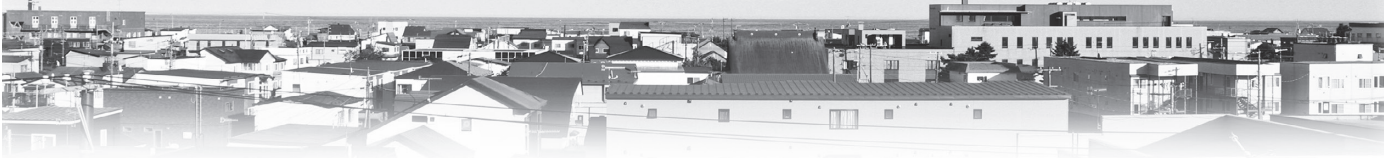
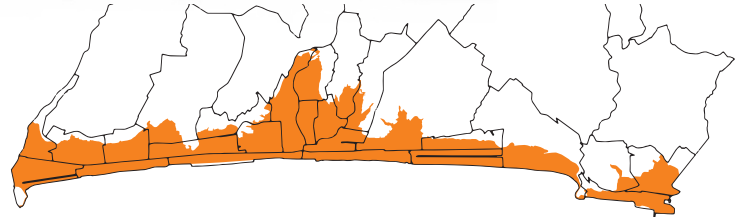


# 北海道太平洋沿岸の津波被害想定をお知らせします

問い合わせ 総務グループ  
(☎051130)



今月号では、北海道が作成した北海道太平洋沿岸の津波の被害想定を紹介します。  
市民と市が共に被害の大きさを認識・共有し、防災対策を講じることで被害の大きさがどのように変化するのか確認しましょう。



北海道が想定する登別市の津波は、最大クラスで  
**12メートル（4階建ての建物の高さ）**にもなります。

## 被害想定的前提条件

今回発表された被害想定は、津波被害を**避難行動**から**2つ**、**季節・時間帯**から**3つ**の条件で想定しています。

### 避難行動

#### 早期避難率が低い

素早く避難する人が少なく、津波情報の伝達や避難の呼び掛けが効率的に行われなかった場合



#### 早期避難率が高い

素早く避難する人が多く、津波情報の伝達や避難の呼び掛けが効率的に行われた場合



### 季節・時間帯



- ・明るい時間帯のため、迅速な避難が可能となり、津波による被害が少なくなる時期・時間帯
- ・1日の中で木造建築物の中にいる人数が少ない時間帯のため、建物倒壊などによる被害が少なくなると想定されます



- ・積雪・凍結により避難速度が低下するため、津波による被害が多くなる時期・時間帯
- ・火気使用が最も多い時間帯のため、地震に伴う出火・延焼による被害が想定されます



- ・夜間の暗闇や積雪・凍結により避難速度が低下するため、避難が遅れ、津波による被害が多くなる時期・時間帯
- ・多くの人が自宅で就寝している時間帯のため、避難準備に時間がかかり、避難行動が遅くなると想定されます

避難行動と季節・時間帯の組み合わせにより、被害想定は大きく変化します。

## ●避難行動が遅い(早期避難率が低い)場合の被害想定

避難行動別	割合
すぐに避難する人	20%
少しして避難する人	50%
差し迫ってから避難、または避難しない人	30%



季節・時間帯	建物被害(全壊棟数)		人的被害(死者数)
	液状化による被害	津波による被害	
夏・昼	320カ所	14,000棟	10,000人
冬・夕方			16,000人
冬・深夜			20,000人

## ●避難行動が早い(早期避難率が高い)場合の被害想定

避難行動別	割合
すぐに避難する人	70%
少しして避難する人	30%
差し迫ってから避難、または避難しない人	0%



季節・時間帯	建物被害(全壊棟数)		人的被害(死者数)
	液状化による被害	津波による被害	
夏・昼	320カ所	14,000棟	610人
冬・夕方			3,900人
冬・深夜			7,700人

早期避難率を高くすることで、被害の大きい冬・深夜で  
12,300人の人的被害を減らすことができます。



また、一人一人がすぐ避難することで、  
さらに人的被害を減らすことができます。



## 巨大地震や最大クラスの津波に備えて

### ○市の取り組み

巨大地震に伴う最大クラスの津波の場合、住民などの避難を軸として、土地利用や避難施設、防災施設の活用などを組み合わせて取りうる手段を尽くす、総合的な津波対策の確立が必要です。

市は、津波による被害を軽減させるため、次のような取り組みを実施します。

- ・新たな津波災害警戒区域や指定緊急避難場所(津波避難ビルを含む)を反映した防災マップ(ウェブ版を含む)の周知
- ・新たな津波浸水想定に係る町内会等の研修会や訓練等の実施
- ・社会福祉施設・教育施設・医療施設の避難確保計画の策定の推進
- ・要配慮者に対する個別避難計画の推進
- ・災害拠点としての市役所本庁舎、消防本部本庁舎の建設



◀ 防災マップ

### ○災害から命を守るために

北海道が作成した被害想定を見ると、一人一人の避難意識と行動により人的被害を大きく減らすことができるということがわかります。

大きな地震が発生したときは、「自分は大丈夫だろう」などと考えず、すぐに避難行動を始めてください。それが自分や周りの人の命を守ることにつながります。

また、防災グッズの準備、避難場所の確認など、いざというときのための備えも大切です。

災害はいつ起きるかわかりません。命を守る行動をお願いします。

